



村の図書館

Netflix





今度入った
新しい娘……
かわいいのう

この辺りに
住んどるん
じゃるか?

村の図書館に新しく入った
バイトの少女に幸造の目は
クギ付けになっていた

ドキ
ドキ

鉤沼 幸造

図書館は週一程度
利用している
趣味は写真撮影

ズズ

ああ……たまらん
青春じゃ……

グ
グ

ズ
ズ

いつかあの股ぐらに顔を突っ込んで思いう存分匂いを嗅いでみたいもんじゃ

さっきトイレに入ったのを確認済みだからなきつとかくわしい香りがするに違いないわい

トイレトペーパーを
持ち帰らなさい
電話03-3444-1111

しゅあぁ

ジーン

んんん

んんん

んんん

幸造20年ぶりの春の芽生えであった

これから図書館通いが楽しみじゃのう



村の図書館

香澄が村の図書館でバイトを始めて二週間が経とうとしていた

子供のころから本が好きな彼女にとってそこは理想の環境だった

はい
どうぞ



ありが
どう

村にひとつしかないこの図書館には大勢の利用客が訪れ楽な仕事ではなかったが

香澄は充実した日々を送っていた

しかし中には困った利用客もいた

あのどの本ですか？

ああ……ちよつと待ってくれんか

たしか携帯にメモが……

カ
カ
カ

ありやうこれはカメラじゃったのほ・ほ・ほ

行き場のない暇をもてあました老人の冷やかしは日常茶飯のこと



中には彼女を目当てに
やってくる利用客も
少なくなかった

あ…あの
こんなタイトルの本
置いてないんですけど…

んん
おかしいなあ

フガ
フガ

確かに以前ここで
見たと思ったんだがねえ
もうちよっと調べて見て
くれんかな

どすけバママのお買物日記
若い肉体をむさぼる
ハレノキ校長
Tバックアイドル涙の
アナル枕営業!

ス
ス

あ…あの…
手…どけて
もらえませんか…

おっと
こりや失礼

若い娘の尻を見ると
つい手が伸びてしまうの

キヤッ

しゅっ

もみ

スッ
スッ

図書館では
静かにしないと…ね
人が来ちゃうでしょ
ほっほっほ

ゴッ
ゴッ

おお

おっぱいもええもの
持っとるの〜

服の上からでも
柔らかさがはつきり
伝わってくるわい

ほほ

やわらかくて
可愛い毛並み
じやの〜

少女に嫌悪感は当然あったが
内向的な性格の香澄は男たちの
強引で大胆な手つきに全身が
凍りついたように動くことができなかった

男も香澄が誰も助けを呼ぶ気配が
ないと察するととんとん行動は
エスカレートしていった

んっ…

フルフル

この日はギリギリまで
食い込ませたパンツごしに
10分以上も股間をまさぐり
続けられた



毎週水曜日は
特に用心しなくてはいけない

パツテリーおじさんが
どこからともなく現れる

本棚の奥から
荒い息遣いが聞こえてきたら
すぐ傍にいる証拠だ

ハア

ハア

ハア

ぬい

あっ

!!

グガグガ

グ

男は毎回自慢するように
自作の器具を持ち込んできては
少女の身体にあてがった

背中に背負った
ポータブル電源に
自前の器具を繋ぎイタズラする

感度
良好

動作安定...

いいよ

近所の電器屋の店長に
よく似ているらしいが
詳しいことはわからない

グガ

午後5時 閉館

がいやあ
がんばっとるね

利用客が帰った後も
気は抜けない

職場の中でも
苦手な人がいるのだ…

例えば副館長の土屋さんは
とても親切でよく仕事の
分からない事をサポートして
くれるが…

副館長
土屋 六四郎

「明るく笑顔の集まる図書館を
つくって行きます」
佃似図書だよりから抜粋

ここは
こうして…
そうそう

あ

スリ
スリ

…ちよっと
や…やめてください

よいしょっと

なぜか毎回
香澄のスカートの中を
まさぐってくる

特に気のある素振りや
卑猥な言葉をかける
わけでもなく…
ただただスカートの中を
まさぐってくる

そして
とても満足そうに
笑う

ちゅ
ちゅ

いん
ね♡

職場で唯一心を許して話ができるのはムチムチ主婦の絵玲奈さんだった

…そう

ほんと土屋さんにも困ったものね

館内で働く数少ない同姓の職員という事もありよく香澄の相談に乗ってくれていた

その日は古書の整理のため2人きりで遅くまで作業をしていた

ちようど一区切りつき絵玲奈さんがおいしい紅茶を振舞ってくれたころ

新人のアルバイトさんも色々大変ね

でも…正直ちよつと羨ましいわ…

アルバイト 絵玲奈さん
図書館で働く数少ない女性職員

ギン

ふふ…

あ…あの… 雪奈…さん？

その夜少女は思い知らされる事となる

ねえ 私にも触らせてくれない

ねえいいでしょ？

この図書館にはまともな人間などいないという事を

ドキ

ドキ

えっ？

ふふどう私の紅茶気に入った？

とっておきの「隠し味」入れておいたからおいしいはずよ

え？

はあはあ

身の危険を感じた香澄は咄嗟に避けようとしたがうまく力が入らなかった

ブル

ギンギン

ブルン

すめすめ

よろけそうな香澄の体を自分のほうに引き寄せると絵玲奈の目つきは一変した

すぐに気持ちよくなるわ
一緒に気持ちよくなりましょう

ぞろぞろ

あふ♡

媚薬の効果はすぐに表れ…

剥き出しの乳房に吹きかかる主婦の荒い吐息はそれだけで香澄の乳首を勃起させた

えい

絵玲奈が実は村では有名な痴女だと聞いたのはこの数日後のことだった

大丈夫任せて…私どっちもいけるから

かわいいわね香澄ちゃん…

意識がはつきりと
定まらない中
香澄はなんとか這って
逃げようと試みたが
あっけなくソファにつまずき
倒れこんでしまう

その無防備な尻に
絵玲奈の欲情は更に高まった

かほっ

しゅっ
しゅっ
しゅっ

ふふどう？

だんだん感じて
きたでしょ？

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

そんな事……
ない……もう……やめてえ
変なところ
舌を入れないで
ください

不毛っ
うそばかり
このいやらしい汁は
興奮している時に
出るときのものよ
感じての証拠だわ

手際よくパンツを
ずりおろすと
少し湿ったワレメに舌を這わせ
少女の小さな肉芽を丁寧に舐め上げた

生まれて初めて
自分の性器を舐められた香澄は
恥ずかしさと今まで感じたことのない
得体の知れない快感に理性が保てなく
なっていた

キシ

はあ……はあ
感じてるなんて……

あうん
もう舐めないでえ……

ハッ

ハッ

しゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

じゃあ
今度はこれを
使ってあげるわ

パイプは
はじめて？
怖がらなくても
いいわ
あなたのアソコは
とっても気に入ってるみたい

あら見て
香澄ちゃんのおまんこも
パイプの竿もヌルヌルよ

あ

パイプ

クワッ

クワッ

しゅ
しゅ

しゅ
しゅ

それ以上されたら
おかしくなるよ

まだよ
これからもっと良くして
あげるんだから

そういうと
絵玲奈は香澄の
股を大きく開かせ
自分の体重を預けると
二人の合わせあった性器の間に
電動パイプを滑り込ませ
はげしく上下に動かした

ズム

あ...はう...
いいわ
あなたと私の
潤滑液でヌルヌルン
このイホイホイ気持ち
いいでしょ

おっ

ウイーン

ずっ

ウイーン

おっ

ためえー

うんじゃ
うう...

うんじゃ
うう...



絵玲奈の執拗なクリトリスへの
パイプ攻めにはじめは抵抗していた
香澄もしだいにその動きに應えるように
自らも腰を動かかし始めた

あらあら
おとなしそうな顔して
この乱れっぷり…

どうやら
媚薬がよく
馴染んできたみたいね

エッチなおつゆ
こんなに撒き散らして
恥ずかしくないの？

だって
き…気持ちよすぎて…
カラダが…勝手にい…

そう
じゃあもつとして
あげる

そして…

びゅーん

あっはっ♡

はあ

はあ

はー

はー

香澄はアナルを
ヒクつかせながら
生まれ初め
絶頂を迎えた

びゅーん

びゅーん

びゅーん

びゅーん



家へ帰ってからも興奮が冷めることはなかった

はじめての絶頂は香澄に今まで知らなかった悦びを芽生えさせた

特にパイプの味が忘れられず自作のパイプや後日絵玲奈にプレゼントされたオナニーグッズで毎夜自慰行為にのめり込んでいった



もちろん職場の
絵玲奈との関係も
続いていた

絵玲奈の行動は
徐々に大胆になっていき...

バイト中にも
香澄のカラダを
求めてきた

私のあげた
パイプ...
ちゃんと使ってる？

ドキ
ドキ
ドキ

ゴ
ゴ
ゴ

チ
チ
チ

すいぶん
濡れやすくなったわね
あとでいっぱい
可愛がつてあげる
わね

当然バイトが終われば
毎日「残業」に付き合わされた

どうしたの？
もっとおまんこを
擦りつけなさい

だが香澄は
拒むことはなかった

毎夜行われる
淫靡な宴は香澄の
芽生えたばかりの
性への好奇心をさらに
刺激していくのだった

グ
グ

グ
グ



一週間もたった頃：
香澄はすっかり絵玲奈に
なついていた

ふあ…
エシすふあんの
おちんぽ…
おいしい

まあ
やらしい

さあ
今日はどっちの穴に
挿れてほしいの？

…お
おひりに…
挿れて…
ほしいです…

じゃあ
犬みたい
お尻突き
おねだり
しなさい

しゅわ
しゅわ

ん…
んっ

いい娘ね…
今日はこのまま
お尻にパイプを
挿れたまま帰るのよ

はい

香澄は
この甘い淫らな
日常がずっと
続くと思っていた

ガ
バ
♡

ビ
チャ
ビ
チャ

ギ
ン
ギ
ン
ギ
ン

ス
ス

ク
ク

それから
3日過ぎた

ご返却ありがとうございます
ございました...

その日の
香澄はいつもより
緊張した面持ちで接客に
あたっていた



いつもより大胆な彼女は
胸を高鳴らせながら
絵玲奈の来るのを
待っていた

絵玲奈さん...
早く来ないかな...

私がこんな姿で
接客してるって知ったら...
喜んでくれるかな...

「いやらしい娘」って
なじられて...
パイプをいじくり回されて...

お尻の穴もいっぱい
責められて...

...そしてその後は...
やさしく抱いて
くれるかな

ああ...
そんなこと考えてたら
ちよっと濡れてきちゃった

秘密は机の下にあった

ウタイ...

ウタイン

ウタイン

ムキ
ムキ
ムキ



しかし…

いやあ
がんばっとるね

事態は香澄の
思惑とは違う方向へと
進んでしまう

ド
ド
ド

あ



おやおや…

構わんよ
わしが拾うから

副館長
土屋 六四郎

『趣味は古い家具を
リメイクして再利用する事です』
佃似図書館だよりから抜粋



それは
偶然のことだった

ウ
イ
ン



ん

ウ
イ
ン

スタッフルーム

部屋に入ると
土屋は抑えていた感情を
爆発させた

か…
香澄くん…!

なんだキミ…!?
やっぱり君は
わしの事…誘ったん
だな!!

わしも君が
どっちつかずの態度を
とっとるから…正直考え
あぐねっとったんだが
…もう遠慮はせんぞ…!
ああ…たまらん胸だ

ガマンできん…!
いくぞお
香澄くん!!

もはや香澄の声は
土屋には届いて
いなかった

あつ
…ちよつ
えつ…!?

ゴゴゴ

ウグウグ

ち…
進うんです
土屋さん
…これは…

おおお

やあ

いゆるん

いん

スル

はあ

ああっ

そりや!

ズ
ズ
ズ

ヒッ
ッ

いやあっ

ユサッ

あっ

ズ
ズ
ズ

おほお
キツキツしまるう

どうだ
ええか?
ええかあ〜?

いやっ
ぬいてええ

こんな おもちやより
わしの肉棒の方が
ずっと気持ちええじやろ…
お?

あん

ズ
ズ
ズ

あん

まったく…!
大人しそうな顔して
こんなボデー見せ付けて
誘惑するとは…
とんでもない好き者じゃわい

パン
パン
パン

ビクッ

ビクッ

ズ
ズ
ズ

その日を境に土屋は
毎日香澄のカラダを求めてきた...

やめし
くたせ...

や...

舌を入らる
たはな
じかんを

フィン

ん

ほ

ほ

無論 弱みをにぎられた
彼女に拒む理由などなかった

清掃中

しばらくの間
お待ち下さい

は

は

は

ポル...

ああ
ええぞ

ええぞ

ん

ん

ん

ん

ん

仕事中心も...
休憩中も...
場所を選ばず

何度も何度も
若い肉体を貪ってきた

あはんと
裏スジまで
なめるんじや
ないな

ん

ん

ん

狂い咲きした
土屋の性欲は
留まる事を知らず

ほれほれ
もっとなんか
振らんか

一日に求めてくる回数
二度や三度という日もあった

あ

あ

もみ

もみ

パン

パン

パン

パン

パン

ああん

あ

あ

ビュン

おっけ
おっけ
おっけ

パン

もみ

もみ

もみ

はあ
わしのせんじ
のケツはわしの
もんじゃあ

パン



土屋に呼び出されれば
断ることが出来ない

そんな関係が
一ヶ月も続いたころ

おお…すまんが
ちよつと受付け
変わってもらえんかの

急な用が入ってな

さあ
いそいで

あ…

時に老人は奇妙な
道具を作る時もあった

それじゃあ
よろしく頼むよ



帰ったフリをして
すぐに戻ってくる…

ズッ

ヤキヤキ

ビクッ

土屋はとくに客のいる
館内でのプレイを好んだ

少女の顔が恥辱に
染まる様を見るだけで
半勃起するほどだった

カード
おかえしします

くっくっ…
香澄君はホントに
パイプが好きじゃのう

カッ
カッ
グググ
ググ

カッ
カッ

ぬらっ

すぐ濡れて
きおる

ちゅぽ

ちゅぽ

いっぱい挿入て
やろう







香澄にしか聞こえない
小さな声で囁きながら
土屋の顔が近づいてくる!



カツの穴が
ビクついてるぞ

ピンク色の綺麗な
アガルじや

緊張してるのか?
ん?

声を出すんじゃないぞ

やがて...

おぞましい感触に思わず
香澄は声を上げそうになった

土屋の脂ぎった顔が
香澄のむき出しの
尻に喰い込む...

さらに芋虫のような舌が
アナルをこじ開けようと
迫ってくる

感触から逃れようと
身を振じらせて
抵抗を試みたものの

それは土屋に更なる
興奮材料を与える
だけであった

さらに
悪夢はつづく...

土屋はいくつもの
パイプを所持している



土屋の別宅は
図書館のすぐ裏にあった



ちやんと家には
遅くなるって
電話したか？

はい

制服はもうすぐ
乾く
それまで
楽しませて
くれるかな



わかりました

ウイーン

よしいい子だ
ちやんと出来たら
ご褒美やるぞ

ん♡



もみもみ

みるみる

はー

はー

あーあーあー

おお...

じゅぽ!!

あーあーあー





そうじゃ...
もつと深く
啜え込むんじや

かき



ん...

っっっ



物ちよあ

おお...あったかい...
絡みついてくるわい



うっ...

クッ



よし
そろそろ
お前のおっぱいで
包んでもらおうか

んんん

ふあい

んんん



んんん

んんん

んっっ

くく...
せつない目を
しておって



そうか！
やわらかくてなかなか
いいハメこもちだぞ！

こ…これは
キツキツじや…！
へへ…締めつけおる
香澄どうだ！
ケツにチンコ
ぶち込まれた感想は？

太くて…
とっても熱いです

ああ！
お尻に…
おっきい！

そうだ
まんこにも
エサをやるぞ

そりや
ぞんぶんに味わえ！

こりやわしの思った
以上の淫乱娘じやな

へへ…しかし初めて
アナルにぶち込まれて
ここまで喜ぶとは…

いやっ
言わないでー

あふう

あふ

あふ

あふ

ウイーン

ウイーン

あふ

あふ

あふ

グググ

グググ

グググ

ウイーン

ウイーン

グググ

グググ

グググ

グググ



はぁ

あ

ググ

うっ...

ドクドク
溢れとる

ググ

ゴゴ

ゴゴ

ゴゴ

ゴゴ

ゴゴ

なんだ香澄
イケツの穴でも
くくく...

ゴゴ

はぁ

ほんと
スケベでいやらしくて
病みつきになるケツじや

ななで

はぁ

そして夜が更けていった

これからもずっと
わし専用だからな

ゴゴ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

今日はバイトが休みだったので
朝から私はこの部屋で土屋さんの
帰りを待っています

土屋さんは仕事が終わると
飛んで帰ってきました

部屋中私のHなスケベ汁の
匂いが漂っています

じゅわ

おまたせ

息を切らして
すでにおちんちんが
勃起しています

土屋さんの
おちんちんが待ち遠しいです

六福



へへ…
香澄い…勤務中
お前のことばかり
考えておって
仕事にならんかったわい

なんだ体じゆう
汗でグツシヨリ
じやな

はい…

もみ

もみ

もみ

わしのパイプで
何回イったんだ？

わかりません
頭の中が真っ白に
なるくらい…何回も…何回も

フフフ…
そんなにイっておいて
まだ欲しいのか？

はい…
もうガマンできません

土屋さんのお
ちんちん…
ください！

ほうくそうかそうか
この欲しがりめ

ほうく
お待ちかねのモノ
じやぞく

あひやう

べらん

べろん

うん

ん

ん

ん

ん

あはあは
はいってききたあ……!

へへ……
言われんでも
子宮の奥まで
突いてやるぞ!

初めはあんなに嫌だった
土屋さんの臭いや唾液……汗
今はすべてが愛おしいです

一日中パイプで全身を
犯されつくした私の身体は
すんなりと土屋さんのおちんちんを
受け入れました

ついて……もっと
ついてえ!!

あうふん
……おちんちん……
届いてる!

かすみ……
愛してるぞお……この胸も……まんこも……

もっこ
かき回してオナオナ

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

キッ
キッ
キッ

いい
いい
いい

フン
フン
フン

フン
フン
フン

フン
フン
フン

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

ギン
ギン
ギン

ギン
ギン
ギン

ギン
ギン
ギン

身体は知っているのです

なあ
今日もこのまま
泊まっていくん
だらう？

パイプでは味わえない
この全身にまわりつく獣のような
感情…それが私の本当に求めていたもの

へへへ
そうかあ
じゃあまずは今日の
溜まった分たつぷり
出してやるぞお！

あふ…はいて
一晩中犯して
く…ださばい
い…つばい

あ
いくぞ
かすみ！

あ
ん

あ
ん



村の図書館





つくば市図書館

ああ…
ついにこの日が来た

待ちに待った
「イス当番」の日

休憩室

不動坂 彰彦
図書館職員

絵玲奈さん
早く来ないかなあ

ドキ
ドキ…

ガクガク

村の図書館

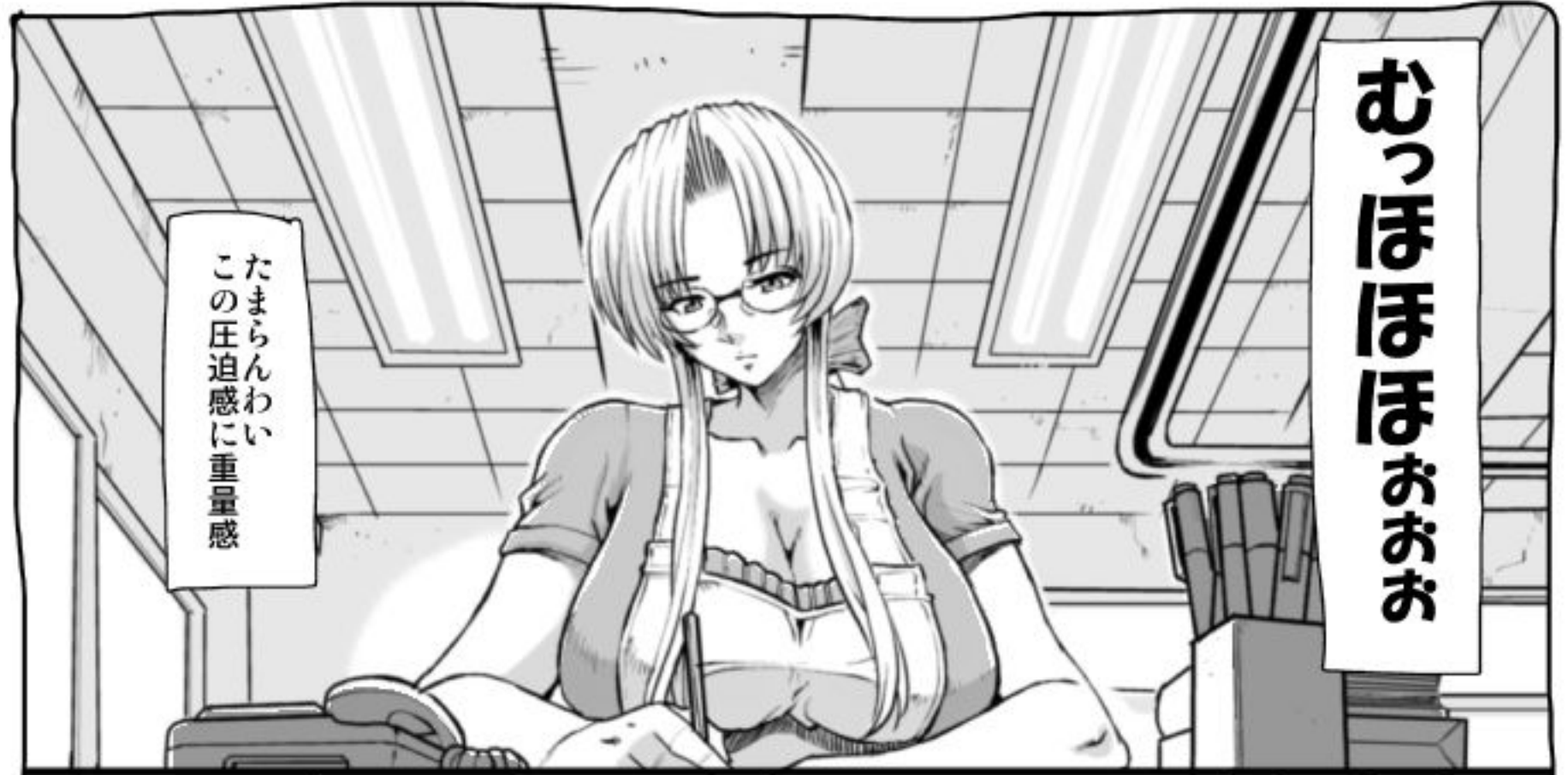
別録

カキヤ



むっほほほあまあ

たまらんわい
この圧迫感に重量感



ギン

一日たっぶり
履きつぶしたパンストから
にじみ出るこの香り…
ス〜ハ〜 ス〜ハ〜

ギン
ギン

そして
何といても
この敗北感…!!



ああ：
こうしていると昔を
思い出すなあ

地元の一流大学を首席で卒業し

銀行員から一大奮起し教師へ転身…
理想の教育を求め全国で講演もしたし
本もたくさん出したなあ

しかし今は
こうして地図にも載らない小さな村の
図書館で雑務をこなす主婦のイス当番…

休憩中に主婦に肉棒を
しこいて頂けるのを
耐える粗末なイスでございます

自分の存在がちっほけだと
思えば思うほど私の海綿体は
熱くなっていくのです



お気に召していただけたら「残業」にもお付き合ひさせていただきます

みなさん私はどこにいるかわかりますか？

イス当番とはいえ私にもフライドはありますこの「ソファ」の係は誰にも負けない自信をもっております

コッ ↓

ビーン

シッ

シッ

シッ

うっ

うっ

それにしても今日はついでななあ…

絵玲奈さんがとてもご機嫌なようです

私のわがままポデーから発する絶妙な体温と柔らかさはきつと快適な座り心地をお約束します

ソファの中からふぐりを引つ張り出してたっぶり汗が染み込んでるであろうハンストでシヤリシヤリ…

ニャリ

ニャリ

ニャリ

おふ♡

おふ♡

どうですか？教授

ああ！昔の呼び名で呼ばないでください絵玲奈さん！情けなさで射精に拍車がかかります



その後
私はさんざん
赤ん坊扱いされながら
肉棒をシヤリシヤリ
しごかれ続けました

情けなさとお甲斐なさで
もうアソコも脚も勃ちっぱなしです

さあ
おっぱいの時間よ
教授
いっぱい
飲みなさい

そりやもう
何度も何度も射精しました
絵玲奈さんが飽きるまで
私は「子種発射イース」でございます



本当に
この村へ来てよかった
私は切にそう思います

村の図書館

別録①

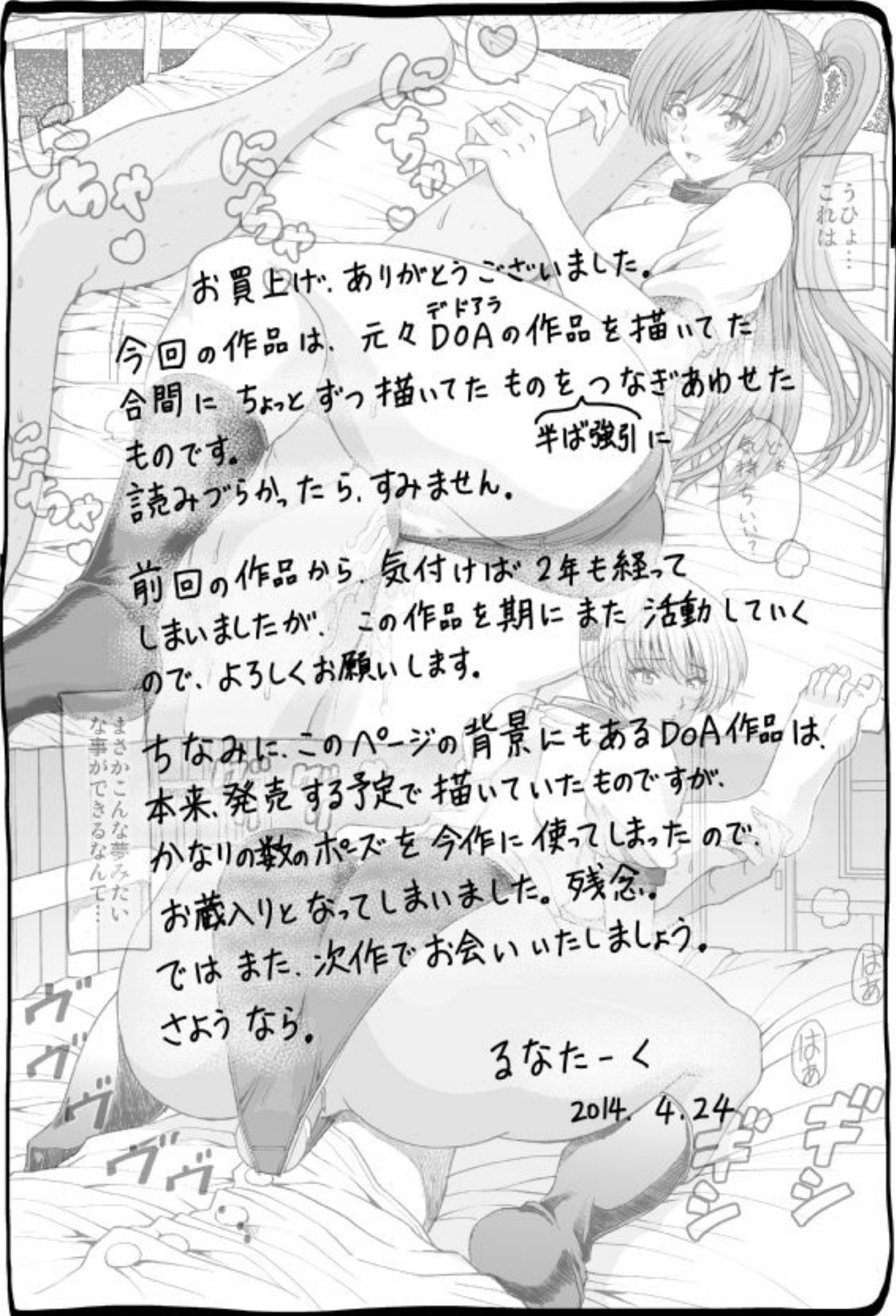
完

元教え子の愛人が告白
SIM フレイに赤ちゃん

最近思うんですよ
人生：転がり落ちるために
山に登るんだなあ...と

有名教授のあきれた私生活

上からシルク！下からシルク



うひょはよ...

お買上げ、ありがとうございます。

今回の作品は、元々DOAの作品を描いた合間にちょっとずつ描いたものをつなぎあわせたものです。
半ば強引に

読みづらかったら、すみません。

前回の作品から、気付けば2年も経ってしまいましたか。この作品を期にまた活動していくので、よろしくお願いします。

ちなみに、このページの背景にもあるDoA作品は、本来発売する予定で描いていたものですが、かなりの数のホーズを今作に使ってしまったので、お蔵入りとなってしまいました。残念。ではまた、次作でお会いいたしましょう。さようなら。

まさかこんな夢みたい
な事ができるなんて...

るなたーく

2014. 4. 24

グ
グ
グ

グ
グ

はあ
はあ
ギ
ギ